

【表紙】

【提出書類】 四半期報告書

【根拠条文】 金融商品取引法第24条の4の7第1項

【提出先】 関東財務局長

【提出日】 平成25年8月9日

【四半期会計期間】 第41期第1四半期
(自平成25年4月1日至平成25年6月30日)

【会社名】 株式会社イマジカ・ロボット ホールディングス

【英訳名】 Imagica Robot Holdings Inc.

【代表者の役職氏名】 代表取締役社長 長瀬朋彦

【本店の所在の場所】 東京都品川区東五反田二丁目14番1号

(上記は登記上の本店所在地であり、実際の業務は下記の場所で行っております。)

【電話番号】 03-6741-5750 (代表)

【事務連絡者氏名】 取締役常務執行役員 角田光敏

【最寄りの連絡場所】 東京都千代田区内幸町一丁目3番2号

【電話番号】 03-6741-5743

【事務連絡者氏名】 取締役常務執行役員 角田光敏

【縦覧に供する場所】 株式会社東京証券取引所
(東京都中央区日本橋兜町2番1号)

第一部 【企業情報】

第1 【企業の概況】

1 【主要な経営指標等の推移】

回次 会計期間	第40期 第1四半期 連結累計期間		第41期 第1四半期 連結累計期間		第40期	
	自 至	平成24年4月1日 平成24年6月30日	自 至	平成25年4月1日 平成25年6月30日	自 至	平成24年4月1日 平成25年3月31日
売上高 (千円)		12,122,696		10,926,664		49,919,422
経常利益 (千円)		347,832		355,689		2,095,870
四半期(当期)純利益 又は四半期純損失() (千円)		160,324		490,386		518,918
四半期包括利益又は包括利益 (千円)		236,325		587,011		892,790
純資産額 (千円)		22,812,550		25,053,055		24,973,271
総資産額 (千円)		37,311,997		38,721,513		39,101,430
1株当たり四半期(当期) 純利益金額又は1株当たり 四半期純損失金額() (円)		4.07		11.55		12.86
潜在株式調整後1株当たり 四半期(当期)純利益金額 (円)		-		-		-
自己資本比率 (%)		60.7		64.0		63.4

(注) 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。

2. 売上高には、消費税等は含まれておりません。

3. 潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

2 【事業の内容】

当第1四半期連結累計期間において、当社グループ（当社及び当社の関係会社）が営む事業の内容について、重要な変更はありません。

なお、主要な関係会社の異動は、以下のとおりです。

（映像ソフト事業セグメント）

当第1四半期連結会計期間において、当社の連結子会社であった株式会社ジェンコの全株式を売却したため、同社を連結の範囲から除外しております。

（放送事業セグメント）

当第1四半期連結会計期間において、株式会社IMAGICAエフティーヴィは営業を開始したため、連結の範囲に含めております。

（人材コンサルティング事業セグメント）

当第1四半期連結会計期間において、株式会社コスモ・スペース及び株式会社角川エディトリアル（平成25年7月1日付で株式会社イマジカ角川エディトリアルへ商号変更）は、株式取得により子会社となったため、連結の範囲に含めております。なお、株式会社角川エディトリアルについては、平成25年6月30日をみなし取得日としており、当第1四半期連結会計期間においては、貸借対照表のみを連結しております。

第2 【事業の状況】

1 【事業等のリスク】

当第1四半期連結累計期間において、財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の異常な変動等又は、前事業年度の有価証券報告書に記載した「事業等のリスク」について重要な変更はありません。
なお、重要事象等は存在していません。

2 【経営上の重要な契約等】

当第1四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

3 【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、本四半期報告書提出日現在において当社グループ（当社及び連結子会社）が判断したものであります。

(1) 経営成績の分析

当第1四半期連結累計期間におけるわが国経済は、円安を背景とする輸出環境の改善や金融政策の効果等により、景気回復の兆しが一部で見られるものの、海外景気の下振れリスクや国内の雇用情勢・所得環境の先行き等にも注意が必要な状況となっております。個人消費においては、雇用者の実質所得が底堅く推移する中、消費者マインドが改善していること等から持ち直しの傾向が続いております。

このような環境の下で、当社グループは、映像ビジネスにおいて幅広い事業展開を行っており、グループ丸となって、経営ビジョンに掲げております「映像コミュニケーションにおける新たな価値創造」に向けて、グループの総合力を発揮し、収益力及び財務体質を強化することに取り組んでまいりました。

これらの結果、当第1四半期連結累計期間における当社グループの業績につきましては、売上高は109億26百万円（前年同四半期比9.9%減）、営業利益は2億32百万円（前年同四半期比20.1%減）、経常利益は3億55百万円（前年同四半期比2.3%増）、四半期純利益は4億90百万円（前年同四半期は四半期純損失1億60百万円）を計上いたしました。

セグメントの業績を示すと、次のとおりです。

映像技術サービス事業

テレビ番組、CM制作分野におけるポストプロダクション作業は、テレビバラエティ番組の受注が特番も含めて比較的好調でしたが、テレビCM関連作業の受注が、業界全体の落ち込み等の影響により減少いたしました。映画分野におきましては、邦画の大作のロングラン上映を控えている一方で、洋画のラインナップが減少傾向にあるため、受注本数が減少しております。また、DVDやBlu-rayのパッケージ分野におきましては、オーサリングの受注が好調であった反面、プレス作業の受注がやや低調に推移しましたが、前年同四半期の実績を上回りました。

この結果、当第1四半期連結累計期間における当該事業分野の業績は、売上高は36億21百万円（前年同四半期比13.6%減）、営業利益は3億19百万円（前年同四半期比38.0%減）となりました。

映像ソフト事業

広告制作におきましては、全体的に受注量が低調に推移し、売上高・営業利益ともに前年同四半期を下回りました。一方コンテンツ制作におきましては、「劇場版タイムスコープハンター」が本年8月31日に公開を予定しておりますが、収益面では、11月16日に公開予定の映画「ジックス!!!」やテレビドラマ等の制作収入が売上及び利益に貢献いたしました。また、3Dプロジェクションマッピングの映像制作においても常設案件を受注するなど堅調に推移いたしました。

なお、当事業セグメントにおいてアニメーションを主とした映像作品の企画ならびにプロデュースを提供しておりました、株式会社ジェンコの保有全株式を譲渡したため、同社は当第1四半期連結会計期間より当社の連結対象から除外いたしました。

この結果、当第1四半期連結累計期間における当該事業分野の業績は、売上高は21億82百万円（前年同四半期比34.5%減）、営業損失は11百万円（前年同四半期は営業利益82百万円）となりました。

放送事業

放送分野におきましては、「イマジカBS」「歌謡ポップスチャンネル」「食と旅のフーディーズTV」の3チャンネルを運営しております。「イマジカBS」は、新規ケーブルテレビ局での配信を開始したことで加入者数が増加しており、また、「歌謡ポップスチャンネル」は、ケーブルテレビの加入者数及び広告収入が増加いたしました。「食と旅のフーディーズTV」は、加入者数は前年同四半期対比で減少しておりますが、広告収入等で収益をカバーしました。一方、ホテル事業におきましては、ペイテレビで着実に売上を伸ばし工事案件が少ない中、前年同四半期の実績を上回りました。

この結果、当第1四半期連結累計期間における当該事業分野の業績は、売上高は13億15百万円（前年同四半期比10.8%増）、営業損失は20百万円（前年同四半期は営業損失1億81百万円）となりました。

映像システム事業

イメージング分野におきましては、主力の高速度デジタルビデオカメラの販売は海外市場における受注が伸び悩んでいるものの、国内の自動車メーカー案件の受注獲得等により持ち直しの兆しが出てきております。プロ用映像機器分野におきましては、テレビ局への大型案件の受注に加えて、HDビデオサーバー案件の納品により、前年同四半期の実績を上回りました。またCADソリューション分野におきましては、最新CADシステム製品の販売が好調に推移し、業績に大きく貢献いたしました。

この結果、当第1四半期連結累計期間における当該事業分野の業績は、売上高は20億62百万円（前年同四半期比2.2%減）、営業利益は1億19百万円（前年同四半期比77.2%増）となりました。

人材コンサルティング事業

人材派遣・請負サービス分野におきましては、主にWeb職種やゲームエンタテインメント職種を中心に派遣稼働者数が純増した一方で、人材紹介案件の動きが鈍く、売上高は前年同四半期を下回りましたが、販管費の圧縮等により営業利益は前年同四半期を上回りました。映像技術者の人材派遣におきましては、派遣稼働者数及び作業単価が増加したことで堅調に推移しました。コンテンツ制作受託の分野におきましても、ゲーム制作受託を中心に既存追加案件等を受注し、堅調に推移いたしました。

また、当期首より当社グループに加わり当セグメントに属しました、株式会社コスモ・スペースにつきましては、テレビ局への派遣事業や映像制作事業等における業績が堅調に推移し、当セグメントの売上及び利益に貢献いたしました。

この結果、当第1四半期連結累計期間における当該事業分野の業績は、売上高は26億38百万円（前年同四半期比19.5%増）、営業利益は98百万円（前年同四半期比6.1%減）となりました。

(2) 財政状態の分析

資産

流動資産は、前連結会計年度末に比べて3億30百万円（1.3%）減少し、248億71百万円となりました。これは主に、受取手形及び売掛金の減少等によるものであります。

固定資産は、前連結会計年度末に比べて49百万円（0.4%）減少し、138億49百万円となりました。

これらの結果、総資産は、前連結会計年度末に比べて3億79百万円（1.0%）減少し、387億21百万円となりました。

負債

流動負債は、前連結会計年度末に比べて5億46百万円（4.9%）減少し、106億22百万円となりました。これは主に、支払手形及び買掛金の減少等によるものであります。

固定負債は、前連結会計年度末に比べて87百万円（2.9%）増加し、30億46百万円となりました。

これらの結果、負債合計は、前連結会計年度末に比べて4億59百万円（3.3%）減少し、136億68百万円となりました。

純資産

純資産に関しましては、前連結会計年度末に比べ79百万円（0.3%）増加し、250億53百万円となりました。

これは主に、四半期純利益の計上による増加、及び配当金の支払による減少等によるものであります。

(3) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第1四半期連結累計期間において、当社グループの事業上及び財務上の対処すべき課題に重要な変更及び新たに生じた課題はありません。

(4) 研究開発活動

当第1四半期連結累計期間の研究開発費の総額は2億59百万円であります。

(5) 従業員の状況

連結会社の状況

当第1四半期連結累計期間末の当社グループ従業員数は、前連結会計年度末から226名増加し、1,528名となっております。

主にこれは、当第1四半期連結累計期間において、株式会社コスモ・スペース及び株式会社角川エディトリアル（平成25年7月1日付で株式会社イマジカ角川エディトリアルへ商号変更）の株式を取得し子会社化したことにより、「人材コンサルティング事業」セグメントに属する従業員数が増加したことによるものです。

(6) 主要な設備

主要な設備の状況

当第1四半期連結累計期間において、主要な設備に重要な異動はありません。

設備の新設、除却等の計画

当第1四半期連結累計期間において、前連結会計年度末において計画中であった重要な設備の新設等について、著しく変更のあったものは、次のとおりであります。

なお、当第1四半期連結累計期間において、新たに確定した重要な設備の新設、除却等の計画はありません。

変更

会社名 事業所名	所在地	セグメント の名称	設備の内容	投資予定額		資金調達 方法	着手年月	完了予定 年月	完成後の 増加能力
				総額 (千円)	既支払額 (千円)				
(株)IMAGICA 東京映像セン ター	東京都 品川区	映像技術 サービス	ビデオ編 集装置・ 設備	337,900	-	自己 資金	平成25年 5月	平成27年 4月	編集設備 強化

(注) (株)IMAGICA東京映像センターのビデオ編集装置・設備の投資予定額を257,000千円から337,900千円に変更しました。これにより、完了予定年月も平成26年1月から平成27年4月に変更しております。

第3 【提出会社の状況】

1 【株式等の状況】

(1) 【株式の総数等】

【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	150,000,000
計	150,000,000

【発行済株式】

種類	第1四半期会計期間 末現在発行数(株) (平成25年6月30日)	提出日現在 発行数(株) (平成25年8月9日)	上場金融商品取引所 名又は登録認可金融 商品取引業協会名	内容
普通株式	44,531,567	44,531,567	東京証券取引所 (市場第二部)	完全議決権株式であり、権利 内容に何ら限定のない当社に おける標準となる株式であり ます。 単元株式数は100株でありま す。
計	44,531,567	44,531,567		

(2) 【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4) 【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

(5) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式 総数残高 (株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金 増減額 (千円)	資本準備金 残高 (千円)
平成25年4月1日～ 平成25年6月30日		44,531,567		3,244,915		1,513,363

(6) 【大株主の状況】

当四半期会計期間は第1四半期会計期間であるため、記載事項はありません。

(7) 【議決権の状況】

当第1四半期会計期間末日現在の「議決権の状況」については、株主名簿の記載内容が確認できないため、記載することができないことから、直前の基準日（平成25年3月31日）に基づく株主名簿による記載をしております。

【発行済株式】

平成25年3月31日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式			
議決権制限株式(自己株式等)			
議決権制限株式(その他)			
完全議決権株式(自己株式等)	(自己保有株式) 普通株式 2,059,400		
完全議決権株式(その他)	普通株式 42,458,100	424,581	
単元未満株式	普通株式 14,067		
発行済株式総数	44,531,567		
総株主の議決権		424,581	

(注)「完全議決権株式(その他)」欄の普通株式には、証券保管振替機構名義の株式が2,000株(議決権20個)含まれております。

【自己株式等】

平成25年3月31日現在

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義所有 株式数(株)	他人名義所有 株式数(株)	所有株式数の 合計(株)	発行済株式総 数に対する 所有株式数の 割合(%)
(自己保有株式) 株式会社イマジカ・ロ ボット ホールディングス	東京都品川区東五反田二 丁目14番1号	2,059,400		2,059,400	4.62
計		2,059,400		2,059,400	4.62

2 【役員の状況】

前事業年度の有価証券報告書提出日後、当四半期累計期間における役員の異動はありません。

第4 【経理の状況】

1．四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」(平成19年内閣府令第64号)に基づいて作成しております。

2．監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第1四半期連結会計期間(平成25年4月1日から平成25年6月30日まで)及び第1四半期連結累計期間(平成25年4月1日から平成25年6月30日まで)に係る四半期連結財務諸表について、太陽A S G有限責任監査法人による四半期レビューを受けております。

1【四半期連結財務諸表】

(1)【四半期連結貸借対照表】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成25年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (平成25年6月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	9,125,809	10,042,631
受取手形及び売掛金	1 9,046,122	1 7,338,030
たな卸資産	5,076,985	4,897,533
繰延税金資産	847,936	895,657
その他	1,145,482	1,723,953
貸倒引当金	40,409	26,216
流動資産合計	25,201,926	24,871,590
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物	11,633,298	11,628,958
減価償却累計額	8,420,920	8,502,616
減損損失累計額	201,105	187,693
建物及び構築物(純額)	3,011,272	2,938,649
機械装置及び運搬具	20,295,190	19,472,355
減価償却累計額	18,937,060	18,163,786
減損損失累計額	275,679	239,355
機械装置及び運搬具(純額)	1,082,450	1,069,213
土地	2,995,964	2,997,730
建設仮勘定	39,539	47,531
その他	3,227,106	3,430,215
減価償却累計額	2,236,719	2,425,847
減損損失累計額	36,763	36,721
その他(純額)	953,623	967,647
有形固定資産合計	8,082,850	8,020,772
無形固定資産		
ソフトウェア	450,085	516,432
のれん	77,672	59,709
その他	131,803	48,594
無形固定資産合計	659,560	624,736
投資その他の資産		
投資有価証券	3,002,038	3,095,907
関係会社株式	160,300	72,635
敷金及び保証金	786,228	798,000
繰延税金資産	842,219	912,957
その他	502,290	451,226
貸倒引当金	135,985	126,312
投資その他の資産合計	5,157,092	5,204,414
固定資産合計	13,899,503	13,849,923
資産合計	39,101,430	38,721,513

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成25年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (平成25年6月30日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	1 3,743,529	1 2,962,349
短期借入金	2,010,050	2,023,316
未払金	908,351	911,028
未払法人税等	206,461	133,927
賞与引当金	859,195	607,097
受注損失引当金	30,000	69,475
その他	3,411,447	3,914,873
流動負債合計	11,169,037	10,622,068
固定負債		
長期未払金	429,076	376,754
繰延税金負債	517,864	543,894
退職給付引当金	1,544,161	1,655,213
その他	468,019	470,526
固定負債合計	2,959,120	3,046,389
負債合計	14,128,158	13,668,458
純資産の部		
株主資本		
資本金	3,244,915	3,244,915
資本剰余金	14,414,513	14,414,513
利益剰余金	6,842,526	6,736,616
自己株式	51	51
株主資本合計	24,501,904	24,395,993
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	452,717	522,821
土地再評価差額金	17,933	17,933
為替換算調整勘定	143,999	121,404
その他の包括利益累計額合計	290,785	383,483
少数株主持分	180,582	273,577
純資産合計	24,973,271	25,053,055
負債純資産合計	39,101,430	38,721,513

(2)【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

【四半期連結損益計算書】

【第1四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年6月30日)
売上高	12,122,696	10,926,664
売上原価	8,946,240	7,728,453
売上総利益	3,176,455	3,198,210
販売費及び一般管理費	2,885,528	2,965,696
営業利益	290,927	232,513
営業外収益		
受取利息	9,425	594
受取配当金	35,308	82,154
その他	32,494	50,767
営業外収益合計	77,228	133,515
営業外費用		
支払利息	2,836	3,939
為替差損	11,311	-
その他	6,176	6,401
営業外費用合計	20,323	10,340
経常利益	347,832	355,689
特別利益		
固定資産売却益	5,837	112
関係会社株式売却益	-	229,257
その他	-	50,571
特別利益合計	5,837	279,941
特別損失		
固定資産売却損	3,273	9,837
固定資産除却損	68,876	4,799
減損損失	408,988	-
その他	61,501	2,362
特別損失合計	542,639	16,999
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期純損失()	188,969	618,631
法人税等	37,533	124,318
少数株主損益調整前四半期純利益又は少数株主損益調整前四半期純損失()	151,435	494,312
少数株主利益	8,888	3,926
四半期純利益又は四半期純損失()	160,324	490,386

【四半期連結包括利益計算書】
【第1四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年6月30日)
少数株主損益調整前四半期純利益又は少数株主損益 調整前四半期純損失()	151,435	494,312
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	68,598	70,104
為替換算調整勘定	16,291	22,594
その他の包括利益合計	84,890	92,698
四半期包括利益	236,325	587,011
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	245,214	583,085
少数株主に係る四半期包括利益	8,888	3,926

【注記事項】

(継続企業の前提に関する事項)

該当事項はありません。

(連結の範囲又は持分法適用の範囲の変更)

(1) 連結の範囲の重要な変更

当第1四半期連結会計期間より、株式会社IMAGICAエフティーヴィは営業を開始したため、株式会社コスモ・スペース及び株式会社角川エディトリアル（平成25年7月1日付で株式会社イマジカ角川エディトリアルへ商号変更）は株式を取得したため、連結の範囲に含めております。

なお、株式会社角川エディトリアルについては、平成25年6月30日をみなし取得日としており、当第1四半期連結会計期間においては、貸借対照表のみを連結しております。

当第1四半期連結会計期間より、株式会社マッシュヴメディアネットワークは重要性が低下したため、株式会社ジェンコは保有する全株式を譲渡したため、連結の範囲から除外しております。

(2) 持分法適用の範囲の重要な変更

該当事項はありません。

(四半期連結財務諸表の作成にあたり適用した特有の会計処理)

(税金費用の計算)

当連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算する方法を採用しております。

(四半期連結貸借対照表関係)

- 1 四半期連結会計期間末日満期手形の会計処理については、手形交換日をもって決済処理しております。なお、当第1四半期連結会計期間末日が金融機関の休日であったため、次の四半期連結会計期間末日満期手形が、四半期連結会計期間末残高に含まれております。

	前連結会計年度 (平成25年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (平成25年6月30日)
受取手形及び売掛金	41,478千円	34,953千円
支払手形及び買掛金	32,257 "	13,835 "

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

当第1四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第1四半期連結累計期間に係る減価償却費（のれんを除く無形固定資産に係る償却費を含む。）、のれんの償却額及び負ののれんの償却額は、次のとおりであります。

	前第1四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年6月30日)
減価償却費	427,536千円	343,227千円
のれんの償却額	19,523 "	18,958 "
負ののれんの償却額	"	45,183 "

(株主資本等関係)

前第1四半期連結累計期間(自 平成24年4月1日 至 平成24年6月30日)

配当に関する事項

(1) 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成24年5月21日 取締役会	普通株式	590,602	15.0	平成24年3月31日	平成24年6月8日	利益剰余金

(2) 基準日が当連結会計年度の開始の日から当四半期連結会計期間末までに属する配当のうち、配当の効力発生日が当四半期連結会計期間の末日後となるもの

該当事項はありません。

(3) 株主資本の金額の著しい変動

該当事項はありません。

当第1四半期連結累計期間(自 平成25年4月1日 至 平成25年6月30日)

配当に関する事項

(1) 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成25年5月23日 取締役会	普通株式	637,081	15.0	平成25年3月31日	平成25年6月11日	利益剰余金

(2) 基準日が当連結会計年度の開始の日から当四半期連結会計期間末までに属する配当のうち、配当の効力発生日が当四半期連結会計期間の末日後となるもの

該当事項はありません。

(3) 株主資本の金額の著しい変動

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第1四半期連結累計期間(自 平成24年4月1日 至 平成24年6月30日)

1 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント						調整額 (注1)	四半期連結 損益計算書 計上額 (注2)
	映像技術 サービス	映像ソフト	放送	映像システ ム	人材コンサル テイング	計		
売上高								
外部顧客への売上高	4,031,708	3,325,952	1,186,016	2,065,574	1,505,018	12,114,269	8,426	12,122,696
セグメント間の 内部売上高 又は振替高	162,410	6,028	1,820	42,557	703,629	916,445	916,445	
計	4,194,118	3,331,980	1,187,836	2,108,131	2,208,647	13,030,714	908,018	12,122,696
セグメント利益又は 損失()	515,094	82,307	181,586	67,382	104,747	587,944	297,016	290,927

(注) 1.セグメント利益又は損失()の調整額 297,016千円は、持株会社(連結財務諸表提出会社)等に係る損益1,185,459千円及びセグメント間取引消去 1,482,476千円であります。

2.セグメント利益又は損失()は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

「映像技術サービス」セグメントにおいて、フィルム関連事業の固定資産について、減損損失を計上しております。

なお、当該減損損失の計上額は、当第1四半期連結累計期間においては408,988千円であります。

(のれんの金額の重要な変動)

重要な変動はありません。

(重要な負ののれん発生益)

重要な変動はありません。

当第1四半期連結累計期間(自 平成25年4月1日 至 平成25年6月30日)

1 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント						調整額 (注1)	四半期連結 損益計算書 計上額 (注2)
	映像技術 サービス	映像ソフト	放送	映像システ ム	人材コンサル ティング	計		
売上高								
外部顧客への売上高	3,536,430	2,156,383	1,311,866	2,014,971	1,903,877	10,923,528	3,135	10,926,664
セグメント間の 内部売上高 又は振替高	85,479	26,589	3,970	47,543	734,636	898,217	898,217	
計	3,621,909	2,182,973	1,315,836	2,062,514	2,638,513	11,821,746	895,082	10,926,664
セグメント利益又は 損失()	319,218	11,283	20,381	119,391	98,398	505,343	272,829	232,513

(注) 1.セグメント利益又は損失()の調整額 272,829千円は、持株会社(連結財務諸表提出会社)等に係る損益968,696千円及びセグメント間取引消去 1,241,525千円であります。

2.セグメント利益又は損失()は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

該当事項はありません。

(のれんの金額の重要な変動)

重要な変動はありません。

(重要な負ののれん発生益)

「人材コンサルティング」セグメントにおいて、当社の連結子会社であります株式会社イマジカデジタルスケープが、株式会社コスモ・スペースの発行済株式の80%を取得し子会社化したことにより、負ののれんが発生しております。当該事象による負ののれんを一括償却したことにより、当第1四半期連結累計期間において負ののれん発生益45,183千円を計上しております。

(企業結合等関係)

(取得による企業結合)

1. 株式会社コスモ・スペースの株式取得による連結子会社化

(1) 企業結合の概要

被取得企業の名称及び事業の内容

被取得企業の名称 株式会社コスモ・スペース

事業の内容 放送局への技術者派遣及び放送番組の企画制作

企業結合を行った主な理由

コスモ・スペース社の主要取引先であるテレビ局や広告代理店等に対し、グループのフルラインサービスの提供を通じて、事業規模の拡大を図るため。

企業結合日

平成25年4月1日

企業結合の法的形式

現金を対価とする株式取得

結合後企業の名称

企業結合後の名称に変更はありません。

取得した議決権比率

80%

取得企業を決定するに至った主な根拠

株式会社イマジカデジタルスケープによる、現金を対価とする株式取得であるため。

(2) 四半期連結累計期間に係る四半期連結損益計算書に含まれる被取得企業の業績の期間

平成25年4月1日から平成25年6月30日までの3ヶ月間

(3) 被取得企業の取得原価及びその内訳

取得の対価	370,080千円
取得に直接要した費用	- 千円
取得原価	370,080千円

(4) 発生した負ののれんの金額及び発生原因

発生した負ののれん

45,183千円

発生原因

企業結合時の時価純資産額が、取得原価を上回ったため、その差額を負ののれんとして認識しておりません。

(5) 企業結合日に受け入れた資産及び引き受けた負債の額並びにその主な内訳

流動資産	856,522千円
固定資産	236,072千円
資産合計	1,092,595千円
流動負債	381,303千円
固定負債	192,212千円
負債合計	573,515千円

(6) 企業結合が当四半期連結累計期間の開始の日に完了したと仮定した場合の当四半期連結累計期間に係る四半期連結損益計算書に及ぼす影響額の概算額

当期首を取得日として四半期連結損益計算書を作成しているため、四半期連結損益計算書に及ぼす影響はありません。

(事業分離)

株式会社ジェンコの株式売却

(1) 事業分離の概要

分離先企業の名称

株式会社G Cホールディングス

分離した事業の内容

アニメーション映像作品の企画・制作・プロデュースおよび投資等

事業分離を行った主な理由

株式会社ジェンコの代表取締役である真木太郎氏より、MBO方式による株式買取の希望があり、双方で検討を重ねた結果、同社がより積極的な事業展開を行うためには、真木氏がオーナーシップを持って経営をしていくことが有益であるとの判断に至ったため。

事業分離日

平成25年6月25日

法的形式を含むその他取引の概要に関する事項

受取対価を現金等の財産のみとする株式譲渡

(2) 実施した会計処理の概要

移転損益の金額

関係会社株式売却益 229,257千円

移転した事業に係る資産及び負債の適正な帳簿価額並びにその主な内訳

流動資産 1,155,647千円

固定資産 52,556千円

資産合計 1,208,203千円

流動負債 989,922千円

固定負債 千円

負債合計 989,922千円

会計処理

株式会社ジェンコの連結上の帳簿価額と、当社が対価として受取った現金との差額を関係会社株式売却益として特別利益に計上しております。

(3) 分離した事業が含まれていた報告セグメント

映像ソフト事業セグメント

(4) 四半期連結累計期間に係る四半期連結損益計算書に計上されている分離した事業に係る損益の概算額

平成25年4月1日に株式を売却したものとみなして処理しているため、当第1四半期連結累計期間に係る四半期連結損益計算書には影響はありません。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益金額又は1株当たり四半期純損失金額及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

項目	前第1四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年6月30日)
1株当たり四半期純利益金額又は 1株当たり四半期純損失金額()	4円07銭	11円55銭
(算定上の基礎)		
四半期純利益金額又は 四半期純損失金額()(千円)	160,324	490,386
普通株式に係る四半期純利益金額 又は四半期純損失金額()(千円)	160,324	490,386
普通株主に帰属しない金額(千円)		
普通株式の期中平均株式数(株)	39,373,487	42,472,102

(注) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

2【その他】

平成25年5月23日開催の取締役会において、平成25年3月31日の最終の株主名簿に記載された株主に対し、次のとおり期末配当を行うことを決議いたしました。

配当の総額	637,081千円
1株当たりの金額	15円00銭
支払請求権の効力発生日及び支払開始日	平成25年6月11日

第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

平成25年 8 月 2 日

株式会社イマジカ・ロボット ホールディングス
取締役会 御中

太陽 A S G 有限責任監査法人

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 桐 川 聡 印

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 藤 本 浩 巳 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている株式会社イマジカ・ロボット ホールディングスの平成25年4月1日から平成26年3月31日までの連結会計年度の第1四半期連結会計期間(平成25年4月1日から平成25年6月30日まで)及び第1四半期連結累計期間(平成25年4月1日から平成25年6月30日まで)に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書及び注記について四半期レビューを行った。

四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、株式会社イマジカ・ロボット ホールディングス及び連結子会社の平成25年6月30日現在の財政状態及び同日をもって終了する第1四半期連結累計期間の経営成績を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

- (注) 1. 上記は、四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(四半期報告書提出会社)が別途保管しております。
2. 四半期連結財務諸表の範囲にはX B R Lデータ自体は含まれていません。